

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「中曽根の歴史」発刊及び歴史探訪事業
事業主体 (連絡先)	・中曽根誌編集委員会 (事務局 三原 寿雄 安曇野市豊科高家 4562-1 電話 0263-73-2747)
事業区分	主となる区分 (5) 教育、文化の振興に関する事業 関連する区分 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,677,016 円 (うち支援金: 1,000,000 円)

事業内容

先人が残してくれた圃場整備や高速道路開通以前の地域の地理的な特徴、道路・河川の変化、土地改良の歴史などの記録に加えて、区内の方々の手記・アンケート・写真・趣味の作品等を出して頂いて1冊の中曽根誌にまとめた。

この事業を通して、若者たちへの伝承を含めた異世代の交流、地域の歴史や文化に触れることによる地域への愛着の心情の高揚等の成果を願った。

また、成果物を使って他地域との交流を図る。地域の中学校で行っている「自分の出身地域に分かれての地域を知る学習」の時間を利用して、中曽根誌の内容を要約したパンフレットや区誌本体を地域学習の教材として毎年利用してもらうことで、若者への定着を図る。



【区誌発刊座談会】

事業効果

歴史書の編集・発刊が主目的ではなく、区民が本区の歴史を知ることにより、本区への愛着が増すことから、転出世帯の抑止につながる共に、歴史を通じた世代間交流も生まれ、地域コミュニティの一層の形成に寄与した。実際に、中曽根誌発刊記念講演会や区の総会において、中曽根誌の事が多く話題になると共に、参会者からは編集にかけた苦労を労う言葉や中曽根誌が出来上がったことに対する賞賛の言葉が多く聞かれ、「良い本を作ってくれた」との言葉もたくさん寄せられた。新聞報道後は購入希望も多く関心の高さを物語っている。このことにより、区民の区に対する思いや今後の協力体制が強まったことを実感した。

近隣には、同様に歴史・文化をまとめた区があるので、成果物を活用しながらその区との地域間交流も深める事が出来る。地域の一体感の醸成にも寄与できると考える。

また、先に述べたように、この区誌の編集を通して歴史や文化を知ることにより、先人たちの弛まぬ努力に敬意を表すると共に、地域の絆が強くなったことを感じられる場面がいくつか見られた。

今後の取り組み

- 中曽根地区のHPの立ち上げ。
- 地元中学校の総合的な学習の時間を対象にした地区の歴史探訪会を開催。以降、継続して5年間実施することにより、若い世代への定着を図る。
- 隣接地域との歴史・文化の交流。

【目標・ねらい】

- ① 地域の史跡、地理的特徴の把握
- ② 地域の歴史・文化に触れることで生まれる愛着や世代交流を図る
- ③ 隣接地域との交流深化

※自己評価【B】

【理由】
計画前に予定した左記の事業効果が見られたので、Bとした。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある